2015 年度前期　授業評価アンケート結果に対するコメント
―文芸学部―

文芸学部長　戸　部　順　一

今年度の授業評価アンケートは 220 科目を実施対象科目とし、うち 206 科目から回答が得られた（93％の実施率。実施必須の 151 科目については 98％の実施率であった）。昨年度と比較して若干の実施率の低下が認められるものの（2014 年度は 163 科目を実施対象科目としてアンケート調査が行われ、実施率は 95％、実施必須の 119 科目の実施率は 100％）、90％を超える実施率は、授業評価アンケートの重要性を科目担当の先生方が共有していることの、また、ご自身の担当する授業を、アンケートを参考にして改善していこうという意欲の現われだと、大いに歓迎するところである。

さて、いくつかの設問項目に関してコメントを残しておくことにする。設問 1 の「この授業によく出席した」に対し、80％以上に出席したと回答した学生の割合が 92％であったのは、文芸学部の提供する授業科目が、学生諸君にとって関心の高い内容のものであったことを示している。関心・興味の高さは、設問 2 の「授業中に意欲的に取り組んだ」の平均値が 4.15 であり、また 5 と回答した学生が 42.2％であったという、喜ぶべき結果を生んでいるようである。関心が高ければ、知識を、いわば貪欲に吸収しようとする姿勢を育てる。無論「授業に厭きさせない」工夫があればこそ、関心の維持は可能であり、設問 3，5，7，8 の各平均値が 4.3 を示していることから、科目を担当する先生方の関心・興味を維持させる授業プランも成功しているとの印象を持った。ただ、設問 9 の「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」の平均値が 4.03 と、昨年度と比べて 0.3 ポイントほど低下していることが気にかかる。いわゆるアクティヴラーニングが推奨されている昨今の風潮にのらねばならぬ必然性はないかもしれないが、学生の理解を確認するためにも、授業中に何かしらの発言を促すこと、また、そのための工夫は必要かもしれない。

設問 12 の「総合的にこの授業は評価できる」はアンケート調査をはじめて以来、常に 4.3 前後の高いポイントを得ている。この値は誇るべきであろうし、5 という評価をした学生も 51.9％と半数を超えている。ただ一方で、3 以下の評価をした学生が 15.6％いた。この学生たちへの配慮が今後の課題であろう。